

財団シンボルマーク



平成11年度

アイヌ語ラジオ講座 テキスト

1月▶3月

Vol. 4

2000

STVラジオ平成10年4月12日より放送中

本放送

毎週日曜日 あさ 6:45 ~ 7:00

再放送(平成11年4月10日より下記放送時間に変わっています。)

毎週土曜日 よる 23:15 ~ 23:30

財団法人 **アイヌ文化振興・研究推進機構**

講師のプロフィール



葛野 次雄

1954年1月16日静内町東別生まれ
 1975年以降、父である葛野辰次郎エカシと共に各地の伝統カムイノミに参加する。
 1998年アイヌ語弁論大会に参加し、最優秀賞を受賞。
 現在、静内アイヌ語教室講師、北海道ウタリ協会静内支部青年女性部会長、北海道ウタリ協会静内支部監事を務める。

協力者

志賀 雪湖

1982年から、主に静内町の葛野辰次郎氏、織田ステノ氏、虎尾ハルシア氏より、静内地方のアイヌ語を習う。

講師のお父上である葛野辰次郎氏に伺ったお話と辰次郎氏の著書である『キムスポ』や今回の講座のために書きおろしてくださったもの(LESSON 9,10)などをもとに、テキストを作りました。また、巻末には葛野家のヌサ(外の祭壇)の様子と『キムスポ』に収められた--祖父母又は父母の命日や思い出したときなどに唱える言葉--を紹介しました。巻末の部分は葛野辰次郎氏による表記法となっています。

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	回	日	今日のテーマ
1月	1	2日	LESSON 1 葛野家のカムイノミ(1)
	2	9日	LESSON 2 葛野家のカムイノミ(2)
	3	16日	LESSON 3 葛野家のカムイノミ(3)
	4	23日	LESSON 4 葛野家の先祖供養
	5	30日	葛野家にて(1)
2月	6	6日	LESSON 5 訪問
	7	13日	葛野家にて(2)
	8	20日	LESSON 6 いろりを囲んで
	9	27日	LESSON 7 イヨマンテ
3月	10	5日	LESSON 8 山へ行くときは
	11	12日	LESSON 9 カムイとは
	12	19日	LESSON 10 子どもが生まれて
	13	26日	LESSON 11 春一番に咲くこぶしの花

【静内アイヌ語教室の活動について】

静内アイヌ語教室は、木・土・日曜日にシャクシャイン記念館または静内町公民館で行なわれています。

なお、詳しいお問い合わせ先は、次のとおりです。

静内町役場住民福祉課福祉係
 TEL 代表 01464-3-2111 内線117
 FAX 01464-3-3900



今日のポイント

新年の祈り

今日の一言：

カムイノミ
kamuynomi
神への祈りアシリパノミ アンキ シリ ネ ナ
asirpanomi an=ki siri ne na.

新年の祈りをいたしますよ。

ウロクテ カムイ ウタリ アムキリ ワ ウンコレ キ ヤン！
urokte kamuy utari amkir wa un=kore ki yan！

いらっしゃいます神々よ、ご承知ください。

クコロ ウタリ ピリカ モンライケ キ クニネ
ku=kor utari pirka monrayke ki kunine

私の親族がつつがなく働けますように

セルマク ウシ ワ ウンコレ キ ヤン！
sermak us wa un=kore ki yan！

お見守りください。



； 単語

カムイノミ [神への祈り]

アンキ [私たちがする]

ナ [よ、ぞ]

カムイ ウタリ [神さまたち]

ワ [~して]

クコロ [私の]

ピリカ [良い]

キ [~をする]

セルマク ウシ [~を見守る、守護する]

アシリパノミ [新年の祈り]

シリ ネ [のです、様子です]

ウロクテ [いらっしゃる]

アムキリ [知っている]

ウンコレ キ ヤン [私たちに~してください]

ウタリ [親戚]

モンライケ [働き]

クニネ [~するように]

解 説

6年の歳月のことをマタパ イワンパ「冬の季節が6年」 サクパ イワンパ「夏の季節が6年」といいます。春と秋の短い北海道では冬と夏で1年というとらえ方だったのでしょう。昔は正月を1年の始まりとして祝う習慣はなかったといいますが、葛野家ではアシリパノミをやっています。
(マタ[冬]、パ[年、季節]、イワン[6の]、パ[年、季節]、サク[夏]、パ[年、季節]、イワン[6の]、パ[年、季節])

MEMO

「今日の一言」カムイノミ / 神への祈り

kamuynomi

カムイノミには村全体でやるものと、個々の家々でやるものがありますが、このテキストでは葛野家のカムイノミを紹介しています。家々により祭るカムイが違い、葛野家では巻末で紹介しているようなカムイが祭られています。そして、男の神には女のイナウ(木の御幣)を、女の神には男のイナウを差し上げます。また、カムイノミは男の仕事とされていますが、葛野家の場合、年をとった女性であればやっても良いとされ、この点も地方によって、また同じ地方でも家々によって違ってきます。



今日のポイント

上座の窓(神窓)

今日の一言：

イナウ クス プヤラ
inaw kus puyar
木の御幣の通る窓



イナウ クス プヤラ、 カムイ クス プヤラ、 イタク クス プヤラ
inaw kus puyar, kamuy kus puyar, itak kus puyar,
木の御幣のとおり窓、神のとおり窓、言葉のとおり窓

プヤラ サンカ エン イタクリキンテアン ワ ネ ヤクン アポルセ ロク イタク
puyar sanka en itakrikinte=an wa ne yakun a=porse rok itak
窓に向かって私たちが言葉を奉りましたら、私たちが唱えました言葉

イタッカシカムイ イタクセルマカ オイナレ キ ワ ウンコレ キ ヤン！
itakkaskamuy itaksermaka oynare ki wa un=kore ki yan!
言葉の魂を尊重してください。



；単語

イナウ [木の御幣]	クス [～を通る]
プヤラ [窓]	カムイ [神]
イタク [言葉]	プヤラ サンカ [窓]
エン [～へ]	イタクリキンテアン
ワ ネ ヤクン [～したら]	[私たちが言葉を奉る]
アポルセ [私たちが～を唱える]	ロク [～した]
イタッカシカムイ [言葉の魂]	イタクセルマカ [その言葉の魂]
オイナレ [尊重する、斟酌する]	キ [（語調を整えるための言葉）]
ワ [～して]	
ウンコレ キ ヤン [私たちに～してください]	

解説

イラストをご覧ください。家に入りますと正面にいろりがあります。そのいろりの向こう側に、葛野家では東側にあたりますが、ロルンプヤラ「上座の窓」（ロルン [上座にある] プヤラ [窓]）があります。この窓は、カムイプヤラ「神の窓」（カムイ [神] プヤラ [窓]）とも呼ばれ、神が人間の家を訪れるときの出入り口となります。そして神へ祈った人間の言葉も火の神の煙に乗ってこの窓から神々の元へ行くのだと考えられています。

「上座」 神の席
「右座」 家の主人の席
「左座」 客人の席（この席にはカムイノミの参列者のうち一番大事な人が座ります）
「下座」

MEMO

「今日の一言」イナウ クス プヤラ / 木の御幣の通る窓
inaw kus puyar

イナウ「木の御幣」は酒とともに神の好むもののひとつにあげられます。柳などの木を削って作られたイナウはその形によって、キケパルセイナウ、キケチノイエイナウ、ハシナウ、シトウイナウと呼ばれます。葛野家では女のイナウであるキケパルセイナウは男の神に捧げられ、男のイナウであるキケチノイエイナウは女の神に捧げられます。



今日のポイント

一番身近な神

今日の一言:

イレスフチ
iresuhuci
火の神



カムイノミアン オッタ シホシキアツパ タ
kamuynomi=an or ta sihoskiatpa ta

カムイノミをする時に先ず最初に

イレスフチ モシニコロフチ オレン
iresuhuci mosirkorhuci or en

火の神へ

トゥキ アエオンカミ ルウェ ネ ナ
tuki a=eonkami ruwe ne na.

盃で礼拝するのですよ。



; 単語

イレスフチ [火の神]

オッタ [~する時に、 ~する所で]

モシニコロフチ [火の神様]

トゥキ [盃]

ルウェ ネ [のです]

カムイノミアン [私たちがカムイノミをする]

シホシキアツパ タ [一番最初に]

オレン [~のところに]

アエオンカミ [私たちが ~で礼拝する]

ナ [よ、ぞ]

解説

火は人間に暖かさを与えてくれますし、火があるからこそ煮炊きをして食事をとることもできます。火そのものが神なのです。人間は常に火の神の恩恵を受けて生きています。それに対する感謝の意をこめて何でも収穫したら一番最初に火の神に差し上げるものだといいます。さらに、火の神は人間の言葉を他の神々に伝えるメッセンジャーでもあります。火の神は人間にとって一番身近な神なのです。そんな火の神にも夜は灰(あく)をかけて火の神を埋(い)け、休んでいただきます。

MEMO

「今日の一言」イレスフチ / 火の神さま

iresuhuci

火の神の呼び名はさまざまで、イレスフチの他にイレスカムイ、モシニコロフチなどがあります。イレスフチはイレス「人を育てる」、フチ「おばあさん」、イレスカムイはイレス「人を育てる」、カムイ「神」、モシニコロフチはモシニコロ「大地を司る」、フチ「おばあさん」という意味です。火の神はおばあさんで、6枚の着物を羽織っており、炎は火の神の絹衣なのです。



今日のポイント

訪問の作法 男女の違い

今日の一言：

シハウヌヤル
sihawnuyar
声で訪問を知らせる

オッカヨ アナクネ チセ ソイ タ 「ン、ン、ン、ン、ン」
okkayo anakne cise soy ta “ n,n,n,n,n,n ”
男は家の外で「ん、ん、ん、ん、ん、ん」

アリ シハウヌヤル ペ ネ
ari sihawnuyar pe ne.
と声で訪問を知らせるものです。

メノコ アナクネ チセ ソイ タ 「オッホ、オッホ、オッホ」
menoko anakne cise soy ta “ ohho,ohho,ohho ”
女は家の外で「おっほ、おっほ、おっほ」

アリ シハウヌヤル ペ ネ
ari sihawnuyar pe ne.
と声で訪問を知らせるものです。



； 単語

シハウヌヤル [声で訪問を知らせる]
アナクネ [~は]
ソイ [外]
アリ [と (言う、思う)]
ネ [だ]

オッカヨ [男]
チセ [家]
タ [~に、で]
ペ [もの]
メノコ [女]

解説

最近ではイランカラフテという言葉が挨拶の言葉として浸透しているようですが、静内ではちょっと違和感を覚える方もいるようです。この言葉は男性が決まった作法で挨拶をするときの挨拶言葉で「ご挨拶申し上げます」という意味合いの言葉でしたから、「こんにちは」という感じで使っていた言葉ではありませんでした。静内ではその印象が強く残っているのでしょうか。しかし、地方によっては「こんにちは」と同じ感覚で使っていたところもあると言われ、挨拶の言葉ひとつをとっても地方差があったことがわかります。

また、静内では、久しぶりに会ったときに使うイカタイという言葉があります。「久しぶり」とか「珍しい」という意味の言葉です。

MEMO

「今日の一言」シハウヌヤル / 声で訪問を知らせる

sihawnuyar

シハウヌヤルは、シハウ「自分の声」ヌヤル「~を聞かせる」という意味で、よそのお宅を訪ねるときに声をたてて訪問を知らせた習慣から生まれた言葉だといえるでしょう。おじさんが遊びに来るといつも咳払いをしているので、喉の調子の悪い人だと思っていたけれども、大きくなってから、あの咳払いが「ごめんください」と同じだとわかったという話もあります。地方によっては、入口の柱を叩いたりするシフムヌヤル [音で訪問を知らせる] (シフム「自分の音」ヌヤル「~を聞かせる」) という、習慣もありました。



今日のポイント

座る場所

今日の一言：

アルキ ヤン
arki yan
いらっしゃいタント メアン ワ
tanto mean wa.

今日は寒いね。

ソモ エメライケ ヤ?
somo e=merayke ya?

寒くないかい。

ボンノ クメライケ ワ
ponno ku=merayke wa.

ちょっと寒いね。

カムイ サメン アルキ ヤン! アペクル ヤン!
kamuy sam en arki yan! apekur yan!

いろりのそばへいらっしゃい。 火に当たりなさい。



; 単語

アルキ ヤン [いらっしゃい]

メアン [(天候が) 寒い]

ソモ [~しない]

ヤ [(質問であることをはっきり示す言葉)]

クメライケ [私は寒く感じる]

サメン [そばへ]

タント [今日]

ワ [ね、わ]

エメライケ [あなたが寒く感じる]

ボンノ [少し]

カムイ [神] (ここでは火の神を指している)

アペクル ヤン [火に当たりなさい]

解説

よその家を訪ねるとき、昔は、家の外で咳払いをしたり声をたてて、家の人気づいて出てくるまでじっと待っていたといいます。勝手に戸を開けて入ることはとても失礼なことでした。そして、家の中に入っても下座にかしこまっているのが礼儀で、家の人の方がもっと火のそばに来なさいと声をかけて初めていろりのそばに行ったのです。また、炉縁を踏んではいけないといいますが、それは夜、火の神のところに遊びにきた神々が炉縁に座るからなのです。

MEMO

「今日の一言」アルキ ヤン/いらっしゃい

arki yan

相手に「～しなさい」という時の言い方には2通りあります。

そのまま使う言い方

あとにヤンをつける言い方

2人以上に対して「～しなさい」という場合はヤンをつけて言います。「来る」(エク と アルキ)のように1人か2人以上かで形が変わるものがあることに注意してください。

相手が1人のときの「来なさい」 エク! (エク [(1人が) 来る])

相手が2人以上のときの「来なさい」 アルキ ヤン! (アルキ [(2人以上が) 来る])

さらに、相手が1人でも の言い方を使って、丁寧な命令を表すことができます。



今日のポイント

熊の霊送り

今日の一言：

シオイナ イモカ
sioyna imoka
尊きみやげ



シオイナ カムイ イレスフチ コシネウエ キ オロ タ シオイナ イモカ
sioyna kamuy iresuhuci kosinewe ki oro ta sioyna imoka

尊き神が火の神のところに訪れましたその時に尊き土産を

イレスカムイ アオセ キ ロク ア イ プンテックアニ タパン ナ
iresukamuy a=ose ki rok a i puntek=an i tapan na.

火の神に持っていらっしやいましたことは私どもが喜ぶことでございますよ。



；単語

シオイナ [非常に尊い]

カムイ [神、熊]

コシネウエ [～を訪問する]

オロ タ [その時に]

アオセ [あなた様が～に持って来られる]

ア [～した]

プンテックアニ [私たちが喜ぶこと]

イモカ [みやげ]

イレスフチ [火の神]

キ [～をする：語調を整える言葉]

イレスカムイ [火の神]

ロク [～した]

イ [こと]

タパン ナ [でございますよ]

解説

神の国から人間界へ遊びにいらしたクマの神は神を粗末にしない人のところへ向かい、人はクマの神を山へお迎えに行きます。親子のクマに出会った場合、親グマの霊はその時にたくさんのお土産とともに神の国へ送られますが、仔グマの神は1年ほど人間界でお預かりして大事に育てられることになります。時期がくると仔グマの霊を親の待つ神の国へお送りするのです。その時、盛大にとりおこなわれるのがイヨマンテと言われる霊送りです。

酒やご馳走やイノウなどをたくさん持った神は、神の国へ帰って神々を招き宴を開き神の国では手に入らない人間界のお土産をふるまうのです。

MEMO

「今日の一言」シオイナ イモカ / 尊いおみやげ

sioyna imoka

イヨマンテは、肉体というお土産を持って人間界に遊びにいらした熊の神に、たくさんのお土産をもって神の国へ帰っていただくための儀礼なのです。



今日のポイント いろいろなタブー

今日の一言：

イテッケ ヌムケ ヤン
itekke numke yan
選んではいけません



カムイフチ テクサマ タ イテッケ エキムネ オルッペ コペフカ ヤン！
kamuyhuci teksama ta itekke ekimne oruspe kopepka yan！

火の神様のそばで獵の話は語ってはいけません。

クワネニ イテッケ ヌムケ ヤン！
kuwaneni itekke numke yan！

墓標になる木は選んではいけません。

シネンネ イテッケ パイエ ヤン！
sinenne itekke paye yan！

ひとりで行ってはいけません。



；単語

イテッケ [~するな]
カムイフチ [火の神様]
タ [~で、に]
オルッペ [話]
クワネニ [墓標になる木]
パイェ [(2人以上が) 行く]

ヌムケ ヤン [~を選びなさい]
テクサマ [そのそば]
エキムネ [山獵する]
コペフカ ヤン [~を語りなさい]
シネンネ [ひとりで]

解説

火の神は人間と他の神々の仲立ちをする神なのですが、人間にとって都合の悪いことがあります。煙の立つところで獵の話をする、煙に言葉の魂が乗って獲物となる神のところへ行ってしまう獲物がとれなくなってしまいます。ですからそういうときは、ちょっと外へ出て小声で話すのです。山獵のときだけでなくイトウ漁のときも火のそばでは漁の話をしてはいけません。

山へ行くときにも気をつけることがたくさんあります。墓標にする木を切りに行くときは1人で行かず、必ず2人で行くものなのです。「墓標になる木は選んではいけません」というのは、どんな木でもいいという意味ではありません。墓標にするのに適当な木を一旦見つけたらそれ以上探すことはせずに、それを墓標にしなければならないということです。一方、イナウになる木を切りに行くときは、そういうタブーはないようです。さらに、ウバユリ掘りに行くときには2人一組で行かなければ、山で迷う人が出るのだそうです。

MEMO

「今日の一言」イテッケ ヌムケ ヤン / 選んではいけません
itekke numke yan!

「～してはいけません」という言い方は、LESSON 6の「～しなさい」の言い方の頭にイテッケという禁止を表す言葉をつけます。この場合も「行く」(オマンとパイェ)(アルパとパイェ)のように1人が2人以上かで形がかわるものがあることに注意してください。

- ・相手が1人のときの「行ってはいけません」 イテッケ オマン! あるいは イテッケ アルパ!
- ・相手が2人のときの「行ってはいけません」 イテッケ パイエ ヤン!



今日のポイント

神と人間との関係

今日の一言：

シネ ヌマツ
sine numat
ひとつのきずな



カムイ アナクネ ハンケ トゥイマノ オカ ヤッカ
kamuy anakne hanke tuymano oka yakka

神というものは、近くに遠くにいても、

シネ ヌマツ コル ペ カムイ ネ ルウェ ネ
sine numat kor pe kamuy ne ruwe ne .

ひとつの絆を持つものが神なのです。

タブ アポロセ ロク イタク ウワイル イタク ネ ヤクン
tap a=porse rok itak uwayru itak ne yakun

今しがた、私たちが唱えました言葉が、間違った言葉でありましたら

カムイ イコパクヌムケ ワ ウンコレ キ ヤン！
kamuy i=kopaknumke wa un=kore ki yan !

神よ、ご配慮してくださいませ。



；単語

シネ [ひとつの]

カムイ [神]

ハンケ [近くに]

オカ [(2人以上が) いる]

コロ [~を持つ]

ネ [~である]

タブ [今しがた]

ロク [~した]

ウワイル [間違っている]

イコパクヌムケ [私たちのことを配慮する]

ウンコレ キ ヤン [私たちに ~してください]

ヌマツ [絆]

アナクネ [~は]

トゥイマノ [遠くに]

ヤッカ [~しても]

ペ [もの]

ルウェ ネ [のです]

アポロセ [私が唱える]

イタク [言葉]

ヤクン [~したら]

ワ [~して]

解説

アイヌの人たちが考える神と人間との関係は上下の関係ではありません。神がいるからこそ人は生きていけるし、人がいるからこそ神も存在することができる対等の関係なのです。詳しく知りたい方は、藤村久和著『アイヌ、神々と生きる人々』（小学館ライブラリー）をお読みください。また、カムイとは神とは仏とはどういう存在なのか。これが重要なテーマとなった小説、佐江衆一著『北の海明け』（新潮文庫）をお勧めいたします。

MEMO

「今日の一言」シネ ヌマツ / ひとつの絆

sine numat

講師のお父上であります葛野辰次郎エカシによりますと、神というものはばらばらに存在するものではなく、ひとつの絆で結ばれて存在するものなのです。



今日のポイント

神からの授かりもの

今日の一言：

フチサンリリケシ
hucisanrirkes
女の子孫



カムイ レンカイネ チセ コロ コシマツ カムイ オロワ アエカシヌカラ
kamuy renkayne cise kor kosimat kamuy orowa a=ekasnukar

神の意志によって、家の嫁が神から授けられた

フチサンリリケシ カムイ トウイヤ オロ アコシクオレ アン ロク ア イ
hucisanrirkes kamuy tuyya oro a=kosik'ore an rok a i

女の子孫が神のおそばに誕生させられたことこそが、

カムイコブンテックアニ タパン ナ
kamuykopuntek=an i tapan na.

私どもが神に対し喜ばしく感じることでございますよ。

テウンノ カムイ トウラ トウク パクノ キ ノ オウレウス キ ワ ネ ヤクン
teunno kamuy tura tuk pakno ki no oureus ki wa ne yakun

これから、神とともに十分成長するまで育ったら

オナ ウタリ ホロカレス キ クニフ ネ ルウェ タパン ナ
ona utari horkaresu ki kunip ne ruwe tapan na.

父親たちを逆に養うはずの者なのでございますよ。



；単語

フチサンリリケシ [女の子孫]
レンカイネ [~ の意思によって]
オロワ [~ から]
トウイヤ オロ [~ のそば]
アン ロク ア イ [あったこと]
タパン [であります]
テウンノ [これから]
トウク [成長する]
キ [~ をする]
オウレウス [成長する]
オナ ウタリ [父親たち]
クニフ [~ するはずの者]
ルウェ タパン [のであります]

カムイ [神]
チセ コロ コシマツ [家の嫁]
アエカシヌカラ [~ を授けられた]
アコシクオレ [~ に誕生させられた]
カムイコブンテックアニ [私たちが神に対して喜ぶこと]
ナ [よ]
トウラ [~ とともに]
パクノ [十分]
ノ [~ して]
キ ワ ネ ヤクン [~ をしたら]
ホロカレス [逆に養う]
ネ [である]

解説

子どもは神が授けるものです。物語の中でも、子どものない夫婦がカムイを助けたことで子どもを授かる展開になる話が多く語られています。神は人間に子どもを授ける存在でもあるのです。

MEMO

「今日の一言」フチサンリリケシ / 女の子孫

hucisanrirkes

女性にはフチイキリと呼ばれる女の系統があり、男性にはエカシイキリと呼ばれる男の系統があります。男の系統も女の系統も、それぞれ婚姻によって変化することはありません。男の系統は男親から息子へ、息子から男の孫へと、女の系統は女親から娘へ、娘から女の孫へと代々続いていくものです。

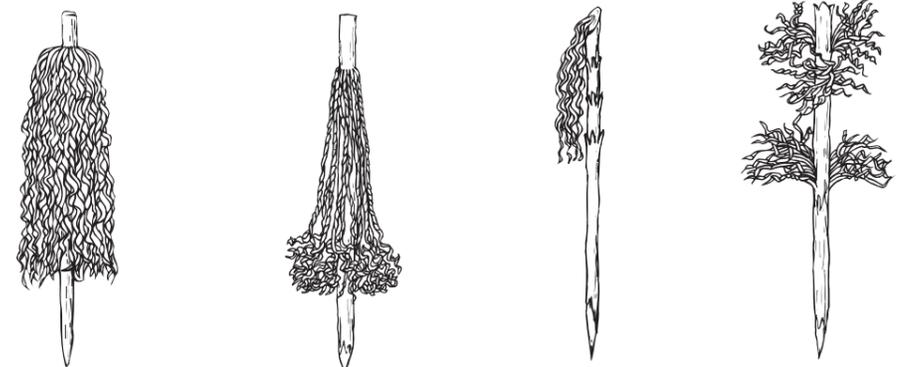
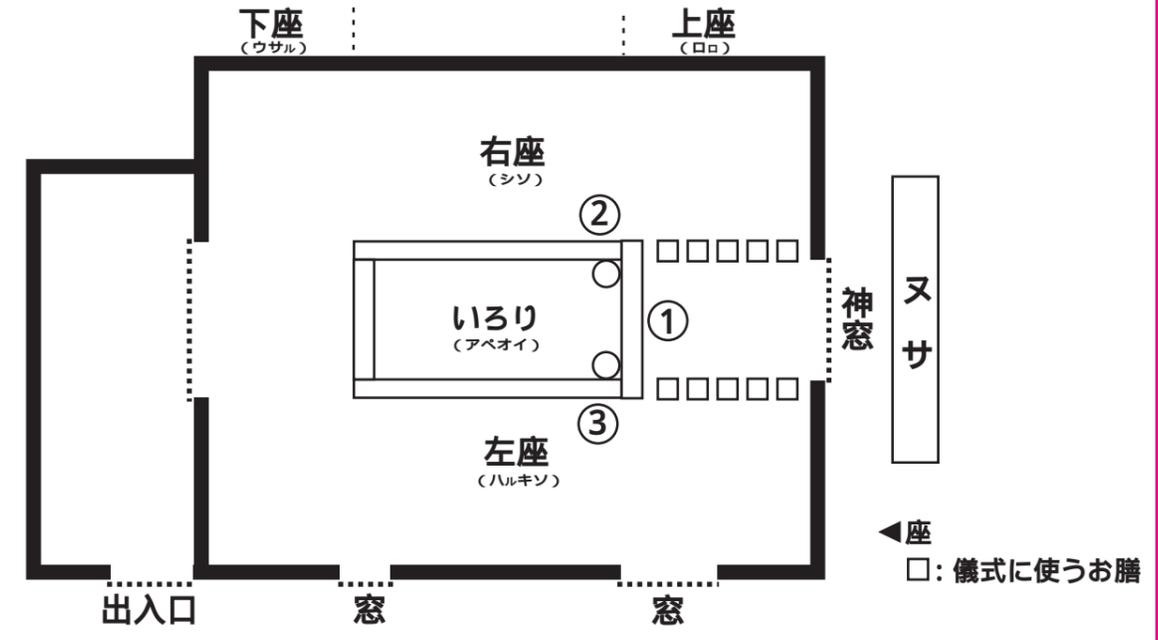


ヌラッパーネーキ 法要であります
 パレキナー。まする。
 (註 アエイヌ あいぬ
 コレ」 アリ ソモ ハウキイツ コレ」 アリ と
 エホロカ 逆の ケウツム 心を コルペ 持つ者
 ルエネイカ なれども 又エ 書き コテ 添え アンキナー。)

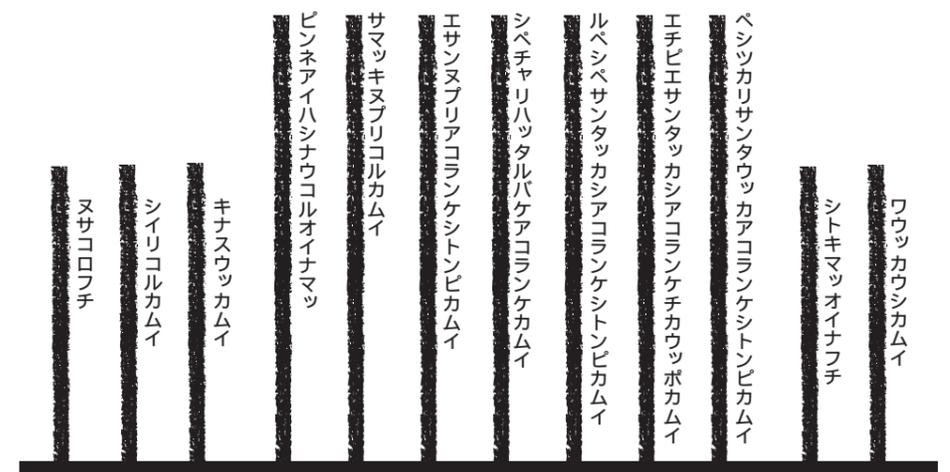
イツワシ 供養の イタツ 唱え ポーロセ 言葉を アオシレ 終らせ
 アナッ は 「イセレマツ お見守り ウスキワ して イ下
 ハウキイツ ね。 ライクウル 死人 アナッ は
 ネクス なので ヤイカタヌ つつしみ アンペ 致す事
 ネ

昭和56年2月22日 綴る 晴天

葛野辰次郎著『キムスポ』より引用



キケバルセイナウ キケチノイエイナウ ハシナウ シトッイナウ



神に捧げたイナウの右に神の名前を記しました。
 片仮名表記は葛野辰次郎エカシの表記法となっています。